

## 第9回全国相撲指導者研修会

第9回全国相撲指導者研修会（主催＝日本武道館・日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）が11月18～20日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、講師9名・助講師2名、参加者28名で行われた。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集定員の大幅縮小や換気・消毒の徹底など、万全のコロナ対策を講じながらの開催となった。

本事業は全国で相撲を指導する小中学校・高等学校の教員および社会体育指導者並びにこれら指導者を目指す者を対象に、相撲授業における指導理論と指導法に関する研修会を実施し、専門的な知識・技術・指導法を習得した指導者を養成することを目的に開催された。

開講式では、はじめに安井和男<sup>やすいかずお</sup>日本相撲連盟専務理事が「この研修会を機に、参加者相互に相談や情報を交換できる関係を作っていただきたい。また、今回の研修会は、テーマを決めて模擬授業を行っていただくよう、講師一同で計画してまいりましたので、よろしくお願いたします」と挨拶。続いて、吉川英夫<sup>よしかわひでお</sup>日本武道館理事・事務局長が「参加者の皆様が、相撲をとおして何を生徒に伝えたいか、それを見つけ出す研修会にしてほしい」と挨拶を述べた。

### ■講義Ⅰ『指導法概論』：桑森真介<sup>くわもりまさすけ</sup>講師

中学校武道必修化の概要説明、指導書の紹介、必修化の経緯と新学習指導要領の説明のあと、授業でのポイント・留意点を解説した。また、「相撲の科学を指導に活かす」の説明の中で、授業においては生徒の体格差に留意し、班別行動や簡易試合を行う際には配慮をするようと呼びかけた。

### ■実践研究Ⅰ『実技研修』：太田麻乃<sup>おたあきの</sup>助講師、村田安啓<sup>むらたやすひろ</sup>助講師

今年3月に実施された、女子相撲の普及を狙ったNIKE主催のイベント「Sumo Show Time」（於：

東京都江東区豊洲）に太田助講師が参加。このイベントで四股や腰割などの基礎的な動きを取り入れたトレーニングを実施したことを紹介し、当日の映像を見ながら研修会参加者も同じトレーニングで汗を流した。

### ■実践事例紹介：澁谷元張<sup>しぶやもとばる</sup>講師、佐藤一郎<sup>さとういちろう</sup>講師

徳島県スポーツ協会管理運営部職員の澁谷講師から、相撲授業では生徒に「なぜ武道（相撲）を実践するのか。授業中に何を、なぜしているかを考えさせること、教員は「安心安全な授業ができていくか段階的に確認すること」に注意して指導したことが説明された。

続いて、徳島県教育委員会体育健康安全課の佐藤講師からは、教育委員会としての取り組みをもとに説明があった。武道種目の複数実施における課題として、体育授業の中で、武道と他の領域とのバランスが取れているか、学校行事を考慮した計画が必要になると発表された。

### ■講義Ⅱ『指導計画』：満留久摩<sup>みつどめきゆうま</sup>講師、堀内弥<sup>ほりうちわたる</sup>講師、上村裕一<sup>かみむらゆういち</sup>講師

中学生の協力を得て実施する模擬授業に向け、指導計画作成時のポイントを確認した。

### ■講義Ⅲ『安全管理・指導（1）』：南和文<sup>みなみかずみ</sup>講師

実際の外傷・障害の事例や連盟医科学委員会の調査結果など豊富な資料を基に、中学校武道必修化をより安全に進めるための具体的な安全管理対策や指導方法について解説した。



南講師による安全管理・指導（1）



手押し相撲の様子



柔道帯での引き合い相撲の様子

■講義Ⅳ『安全管理・指導（２）』：安藤均あんどうひとし講師

学校現場での安全管理と安全面に配慮した指導法・考え方などについて、具体例をもとに説明した。特に、指導者には、「起こらないだろう」ではなく「起こるかもしれない」という姿勢と、事故後の対応や事後処置を迅速・的確に行うため、救急連絡体制をしっかりと構築しておくことが重要であると強調した。

■実践研究Ⅱ-1、Ⅱ-2

『指導案作成』：上村裕一講師

『指導の実践と観察』：堀内弥講師、満留久摩講師、上村裕一講師

『研究協議』：満留久摩講師、上村裕一講師

勝浦市立勝浦中学校の生徒 9 名の協力を得て、実際の中学生に指導する「模擬授業」が実施された。授業は、コロナ禍での実施のため、頻繁な手指消毒など、感染防止策を講じたうえで進められた。

今回は、「相撲遊び」「中腰の構え・四股」「寄り」「簡易的な試合」の 4 つのテーマを、安全に留意

した指導で、主体的・対話的で深い学びに繋がるよう指導案を作成した。各班とも、打合せを重ね、作成した指導法を実践で試みた。生徒たちは初めての相撲に多少戸惑いながらも、楽しんで取り組んでいた。

終了後には、各班で授業内容を振り返るとともに、他の班の授業を観察した結果を発表し合い、模擬授業の成果を全体で共有した。

■実践研究Ⅲ『審判法 簡易試合の体験』：浦島三郎うらしまさぶろう講師、堀内弥講師

浦島三郎講師による審判法の概要説明に続き、全員で審判の動作などを実践。その後、堀内講師指導のもと、手押し相撲や柔道帯を使用した引き合い相撲など簡易試合を体験し、最後に班対抗の団体戦が行われた。閉講式では、桑森講師が講評で「生徒が主体となって、生き活きと授業を行えるようにしてほしい」と述べ、浦島三郎日本相撲連盟参事の主催者挨拶で締め括り、全日程を終了した。

模擬授業を終えて

今津理恵（福岡県福津市教育支援センター）

模擬授業では、生徒たちが相撲について知識がなく、運動経験があまりないということで心配ではありましたが、回を重ねるごとに、考えながら取組んでくれています。また、終了後、にこやかな表情が自然と出ていて、こういったことが相撲の魅力だと感じました。

この研修会は、保健体育科教員が相撲との距離を縮められるよい機会だと思います。こうすれば子どもたちが楽しく学習できる、ということをおぼることができました。実際の指導で困っている先生には、ぜひ参加してもらいたいと思います。

